

当行における地域密着型金融の
21年度取組状況



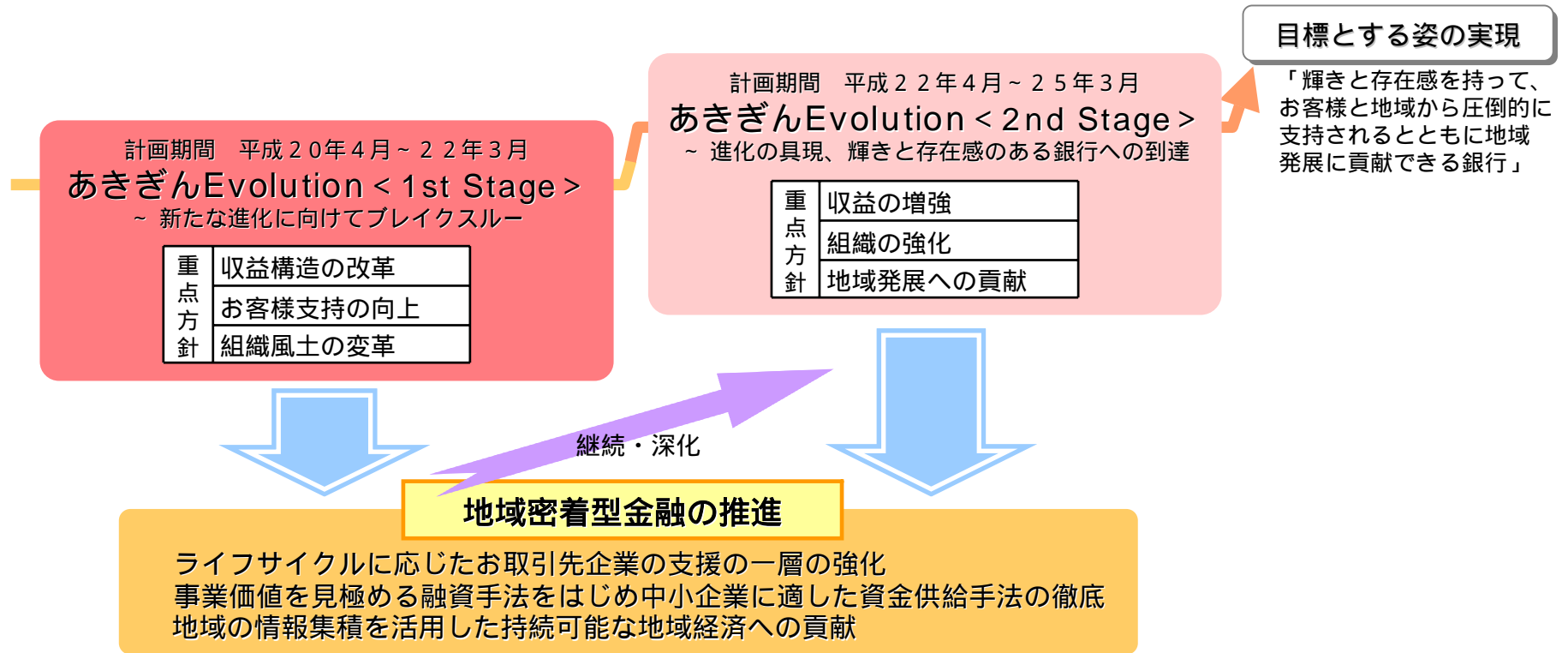
目次

□ 地域密着型金融の推進方針	1	ページ
□ 21年度取組状況（概要）	2	ページ
□ 具体的な取組状況			
1 ライフサイクルに応じたお取引先企業支援の一層の強化	3 ~ 4	ページ
2 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底	5	ページ
3 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献	6 ~ 7	ページ

地域密着型金融の推進方針

当行では、「輝きと存在感を持って、お客様と地域から圧倒的に支持されるとともに、地域発展に貢献できる銀行」を中期的に目標とする姿として掲げ、中期経営計画「あきぎんEvolution<1st Stage>」（平成20年4月～平成22年3月）の各種施策を実施するなかで、地域密着型金融を着実に推進してまいりました。

計画期間は平成22年3月をもって終了いたしました。中期的に目標とする姿への到達に向け、新中期経営計画「あきぎんEvolution<2nd Stage>」（平成22年4月～平成25年3月）への取組みをスタートしており、地域密着型金融の推進につきましても、中期経営計画の各種取組みのなかで、継続・深化をはかってまいります。



2 1 年度取組状況（概要） （21年4月～22年3月）

21年度の地域密着型金融の3つの重点項目の取組状況は以下のとおりとなっております。

ライフサイクルに応じたお取引先企業支援の一層の強化

お取引先の企業力向上、当行の提案力向上、これらによる地域力向上の実現を目指し、営業店と本部が協力し、販路拡大、貿易取引、新規事業展開などの各種支援活動に取り組みました。

また、財務内容に問題を抱えるお客様に対する経営改善・企業再生に向けた支援を実施しました。

事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底

財務情報のみならず、定性情報を含めた地域の情報を活かし、お取引先の事業価値を見極めることにより、動産を担保とする融資など新たな資金供給手法を活用しました。

地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

行政や提携機関との連携を強化し、地域活性化に資する各種支援活動に取り組みました。

また、地域の次代を担う子どもたちに対し、お金に関する教育を継続して実施したほか、創業130周年記念事業の実施を通じ、地域社会に貢献しました。

これらの具体的な取組状況につきましては、次ページ以降をご覧ください。

また、これらの取組により、21年度に掲げた地域密着型金融に関する4つの数値目標につきましては、全項目を達成しました。

4つの数値目標

	目 標	実 績	目標 達成率
ビジネスマッチング機会のご提供件数	400件	757件	189.3%
債務者区分ランクアップ先数	20先	33先	165.0%
行政・提携機関との連携による支援実施件数	12件	12件	100.0%
お金に関する教育の実施校数	10校	16校	160.0%

《具体的な取組状況》

1 ライフサイクルに応じたお取引先企業支援の一層の強化

◎ お取引先企業の成長段階に応じた支援

➤ ビジネスマッチング機会のご提供

商談会の開催や個別の商談の仲介によるビジネスマッチング機会のご提供件数は、過去最高の757件（計画400件）となりました。

商談先は、地元企業のみならず、首都圏の企業や大手流通業者など多岐にわたっており、ビジネスマッチング機会のご提供を通して、お取引先の販路拡大に貢献しました。

< 主な商談会 >

- ・あきた「食」のマッチングフェア < 21年12月3日～秋田市 >
- ・あきた“食彩まるごと”商談会 < 22年1月26日～東京 >
- ・FOODEX JAPAN 2010 < 22年3月2～5日～千葉 >



FOODEX JAPAN 2010

➤ 貿易取引に関するコンサルティング

当行は、国際業務に豊富なノウハウを有する三菱東京UFJ銀行および三菱UFJリサーチ&コンサルティングと業務提携しており、お取引先からの多様なご相談にお応えできる体制を構築しております。

21年度はお取引先34社に対してコンサルティングを実施し、海外との貿易取引をサポートしました。

➤ 創業・新事業支援

創業や新事業進出を検討されるお取引先に対して、営業店と本部が一体となり、事業性評価、資金調達、補助金の活用などに関する情報提供・アドバイスをはじめとした各種支援を実施しました。

21年度の創業支援や新事業進出に関する融資商品の取扱実績は、53件・3.7億円となっております。

- ☞ 当行では、このほかにも大学等専門機関への技術相談の取次ぎや事業承継など、お取引先の成長段階に応じた各種支援に積極的に取り組んでおります。

《具体的な取組状況》

1 ライフサイクルに応じたお取引先企業支援の一層の強化

➤ 経営内容の改善

経営内容に課題を抱えるお取引先の改善計画策定のサポートおよび計画進捗状況のモニタリングなどの活動を通じて、債務者区分ランクアップ (= 経営内容の改善) に取り組みました。

2 1年度債務者区分ランクアップ先数は、**33先** (計画20先) となりました。

◎ 事業再生支援

➤ 整理回収機構 (RCC)、中小企業再生支援協議会などを活用した事業再生支援

事業再生については、審査部「企業経営支援室」が中心となり、営業店やお取引先企業と協力して取り組んでおります。また、必要に応じて外部機関を活用することにより、再生の実現性を高めております。

2 1年度は4社がRCCや中小企業再生支援協議会を活用し、事業再生を開始しました。

経営改善支援等への取組状況

【21年4月～22年3月】

(単位:先数)

	期初債務者数 A	うち 経営改善支援 取組み先 α	αのうち			経営改善支援 取組み率 = α/A	ランクアップ率 = β/α	再生計画 策定率 = δ/α
			αのうち期末に 債務者区分が ランクアップし た先数 β	αのうち期末に 債務者区分が 変化しなかった 先 γ	αのうち再生計 画を策定した先 数 δ			
正常先 ①	11,799	3		2	2	0.0%		66.7%
要 注 意 先	うちその他要注意先 ②	2,161	144	22	107	6.7%	15.3%	24.3%
	うち要管理先 ③	14	1	1	0	7.1%	100.0%	100.0%
破綻懸念先 ④	567	58	8	47	18	10.2%	13.8%	31.0%
実質破綻先 ⑤	274	11	2	9	2	4.0%	18.2%	18.2%
破綻先 ⑥	125	1	0	1	0	0.8%	0.0%	0.0%
小計(②～⑥の計)	3,141	215	33	164	56	6.8%	15.3%	26.0%
合計	14,940	218	33	166	58	1.5%	15.1%	26.6%

《具体的な取組状況》

2 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底

◎ 事業価値を見極める融資手法の拡充

➤ 動産担保融資（ABL）の推進・体制整備

お取引先が保有する売掛債権や在庫を担保とした資金のご提供を信用保証協会の「流動資産担保融資保証制度」の活用などにより、推進しました。

また、車両等を担保とする「<あきぎん>車両活用ローン」（21年4月～）の取扱いを開始し、商品ラインアップの強化をはかりました。

これらによる動産担保融資（ABL）の取扱実績は、**15件・4億円**となっております。

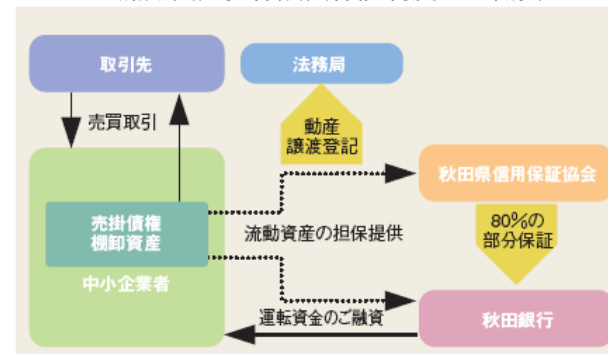
動産担保融資（ABL）は、不動産担保や第三者保証人を必要としない新たな資金供給手法であることから、より多様な動産を担保として資金をご提供できるよう、行内体制の整備を進めております。

➤ シンジケートローンの組成（秋田県初）

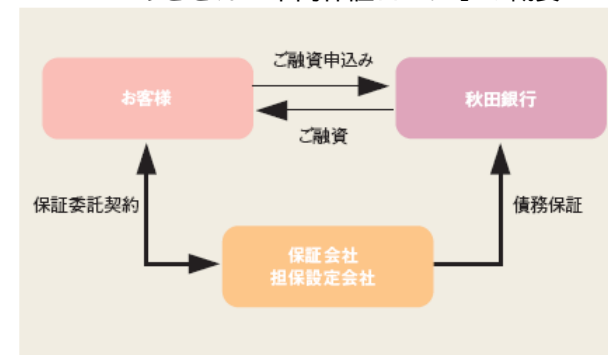
複数の金融機関が協調して融資団を結成し、貸出を行うシンジケートローンについて、当行は**県内金融機関で初の主幹事**を務め、観光ホテルに対する融資案件を組成しました。

☞ 当行では、このほかにも農業関連融資や私募債引受けなど多様な資金ニーズに対応しております。

「流動資産担保融資保証制度」の概要



「<あきぎん>車両保証ローン」の概要



《具体的な取組状況》

3 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

◎ 地域経済活性化に向けた取組み

➤ 行政や提携機関との連携強化による地域活性化に資する各種支援活動の推進

当行は、県内外103か所の店舗ネットワークを有し、地域の情報および各種支援ノウハウを蓄積しておりますが、このほかにも行政や各種機関との連携を活用し、お取引先に対するより高度な支援に協働で取り組んでおります。

21年度は、行政や提携機関との連携し、ビジネスマッチング機会の提供、各種セミナーの開催、製品開発に関する技術相談などについて計12件（計画12件）の支援活動を実施しました。



事業承継セミナー

➤ 秋田県経済の活性化に向けた提言の実施

当行が昭和54年に設立した秋田経済研究所は、秋田県の地域産業や企業経営一般に関する調査・研究を行っており、その内容を機関誌「あきた経済」などで発表しております。

創立30周年を迎えた21年度は、地域の発展・活性化に役立つ調査・提言をまとめた「『あきた経済』特集号」を発刊しました。

このほか、秋田経済研究所は、秋田県経済の発展や産業振興・育成に貢献することを目的に、将来性のある企業や地域産業の活性化に貢献している中小企業に対する表彰を設立以来継続して実施しております。



「あきた経済」表紙



「『あきた経済』特集号」表紙

◎ 創業130周年記念事業と地域貢献活動

➤ 環境保護活動

「あきぎんの森」づくり活動として、松くい虫被害により失われた松林の再生活動を開始しました。

当行は「日本の森を守る地方銀行有志の会」の発起人として、これからも積極的な環境保護活動を展開してまいります。



水林国有林での植樹（21年10月実施）

《具体的な取組状況》

3 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献

➤ 子供たちへの教育・スポーツ分野での支援活動

創立130周年記念事業として、小学生とその保護者を対象に「世の中のお金の流れ」や「銀行の仕事」を楽しみながら学べるイベントを県内6か所で開催し、計98組の親子に参加いただきました。

このほかにも、当行では、当行職員が講師として教壇に立ち、「お金のはたらき」や「経済のしくみ」をカリキュラムとする小・中学校等での授業に平成17年から取り組んでおります。

21年度は16校(計画10校)で授業を実施し、地域の次代を担う子どもたちの育成・支援に努めました。

また、スポーツ分野では、「バスケットボールクリニック」を開催し、当行女子バスケットボール部員が女子中学生選手などに技術指導を行っております。

☞ 当行は、地域金融機関として本業を通じた地域経済・産業の発展への貢献はもちろんのこと、本業を超えた社会貢献活動についても積極的に取り組んでおります。



銀行内見学の様子



当行職員による授業の様子



女子バスケットボール部員による技術指導の様子